

せんだい GREEN アクションアワード表彰事業者「仙台三越」



仙台三越 代表取締役社長の小宮仁奈子さん（中央左）、総務・経営企画部の喜田みゆきさん（中央右）、取締役総務・経営企画部部長の千葉祐司さん（右端）、総務・経営企画部マネジャーの只野良樹さん

株式会社仙台三越は、顧客への配慮と温室効果ガス削減を両立する取り組みが高く評価された。

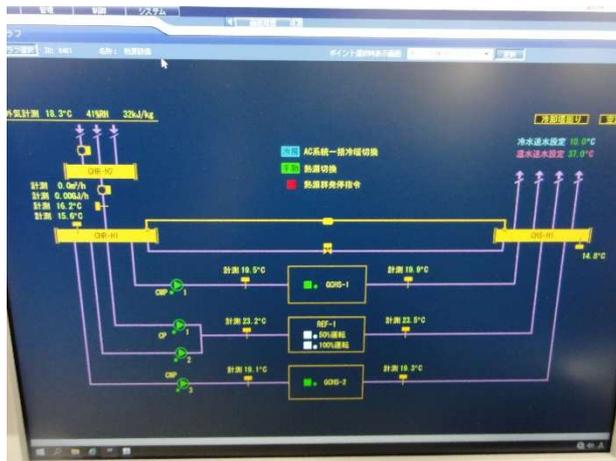
三越伊勢丹ホールディングスでは、温室効果ガスの排出量について、2030年度までに2013年度比で42%削減することを目標として掲げている。仙台三越でもこの目標を達成するべく以前から環境負荷を軽減する取り組みに注力しており、今回温室効果ガス削減アクションプログラムに参加し改めて評価された形だ。

仙台三越では、上層階フロアの営業時間を短くし、早めに閉店することで空調や照明に係るエネルギー消費量の削減に成功している。

百貨店では営業時間は長いほど売上に繋がるというのが常識だそうだが、「従来の手法を抜本的に見直し、営業時間を長くするのが当たり前という前提から疑い改めて考えてみることにした」と話してくれたのは、仙台三越 総務・経営企画部業務 兼 経営企画マネジャー・只野良樹さんだ。

営業時間を短縮すると聞くと若干ネガティブな印象を受けるが、実態はその逆。売り場の収支を細かく分析し、顧客への接客をより手厚いものにできるよう従業員を再配置したことが営業時間の短縮という発想の根本にある。

顧客の満足度向上を目指したことで来客数の少ない時間帯が把握でき、閉店時間を早めるという単純ながらも画期的なアイデアが生まれた。売上も前年よりも向上しており、「お客様には手厚いサービスを提供できるし、我々も売上が伸び、さらにコストも削減できている。その上環境面にも優しい取り組みとして上手くいっていると言えるのでは」と、確かな手応えが実感できているようだ。



全館の空調や照明を効率よく管理しつつ、さらに営業時間の短縮によってエネルギー消費を削減した

今後はこれまでに蓄積されたデータを活用し、営業時間や従業員の配置をよりブラッシュアップしていきたいと話す只野さん。顧客にとっても企業にとってもメリットの多い取り組みに期待が募る。

□株式会社 仙台三越 WEB サイト

<https://www.mitsukoshi.mistore.jp/sendai.html>